

しんあい なる ムスリム の みなさま！

ぜんのう の アッラー (swt) から、しもべ たち に さずけられた さいだいの しゅくふくの ひととき が おとずれました。この ひととき、かのうせい と おおくの きかい が、ひとり ひとりの じんせい を あます ところ なく つつみこみます。これは かけがえ の ない ざいさん で あり、いっしゅん いっしゅん が とうとく、けっして むだ に する こと の できない かし を ひめて います。

そんけい すべき しんこうしゃ の みなさま！

とくていの つき や にちじ に かぎりず、アッラー (swt) への すうはい を いしき して すごした じかん は、その すべて が とうい もの です。しかし、せい なる おんちよう の とき として さずけられ、いのり が うけいられ、ゆるし へと みちびかれる とくべつ な とき も また そんざい します。これは、アッラー (swt) から ひとびと に しめされた、むげん の じひ の しるし です。その よう な きちよう な とき の ひとつ が ライラトゥル・バラート で あり、2 がつ 2 にち の ゆうこく から はじまる ひととき が、まさに それ に あたります。

しんあい なる ムスリム の みなさま！

アッラー の しと (saw) は、ライラトゥル・バラート に ささげられる すうはい や れいはい、いのり が、わたしたち への ゆるし に つながる という きつぽう を つたえて くださいました。「シャアバーン づき じゅうご にち に は さいかい を し、また よる は れいはい を して すごしなさい。なぜなら その よる、ひ が しずむ と、しこう の アッラー は、わたしたち に は しる こと の できない かたち で、ちじょう に もっとも ちかいてん に ごじしん を あらわされます。そして、『だれ か、ゆるし を もとめる もの は いない か。われ が ゆるそう。だれ か、かて を もとめる もの は いない か。われ が さずけよう。だれ か、さいなん に あっている もの は いない か。われ が たすけよう……』と おおせ に なり、それは よあけ まで つづく の です」。¹

そんけい すべき しんこうしゃ の みなさま！

ライラトゥル・バラート と は、わたしたち の こころ の もっとも ふかい ところ から、アッ＝ラフマーン (swt) へと いたる みち が ひらかれる とき です。くいあらため、アッラー (swt) に たちかえる こと によって、その じひ と ゆるし を ねがいもとめる ため に あたえられた、かけがえ の ない とき な の です。

ぜんのう の アッラー (swt) は、よげんしゃ ムハンマド (saw) に たいし、せい クルアーン の なか で つぎ の よう に つげて おられます。「われら の しるし を しんじる もの が、あなた の ところ へ きた とき は いいなさい。『あなたがた に へいあん あれ。あなたがた の しゅ は、[あらかじめ] じひ を おんみずからの むね とした。それゆえ むち で あった ため に あく を おこなった もの が、その あと に なって くいあらため、また みずから を ただす なら、おんかた は もっとも よく ゆるし、もっとも じびぶかい』」。²

しんあい なる ムスリム の みなさま！

この よる の おしえ と バラカ (しゅくふく) の おんけい を うけとり、えいえんの せい における すくい という バラートを さずかり ましょう。

いき を ひとつ する の に も、アッラー (swt) の ごしようにん を もとめる ところ を わすれず に いましょ。クルアーン と スンナ の みちびきに したがひ、わたしたち の じんせい を かたちづくって いましょ。アッラー (swt) への すうはい を いしき せず に すごして しまった じかん は、やがて そんしつ と なって みずから に かえってくる こと を、けっして わすれない よう に しましょ。

この ば を とおして、みなさま に ライラトゥル・バラートの おいおい を もうしあげます。せい なる この よる、ぜんのう の アッラー (swt) が わたしたち の とうい きょうどうたい に、イスラーム せかい に、そして ぜんじんるい に、へいあん と はんえい を もたらして くださいます よう に。

¹ Ibn Majah, Iqamat, 191

² An'am 6/54.